

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-17786

(P2004-17786A)

(43) 公開日 平成16年1月22日(2004.1.22)

(51) Int. Cl.⁷

B60N 3/08

A24F 19/00

F I

B60N 3/08

A24F 19/00

テーマコード(参考)

3B088

J

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号

特願2002-174977(P2002-174977)

(22) 出願日

平成14年6月14日(2002.6.14)

(71) 出願人

391021226

株式会社カーメイト

東京都新宿区榎町72番地

(74) 代理人

100062982

弁理士 澤木 誠一

(74) 代理人

100102749

弁理士 澤木 紀一

(72) 発明者

桜井 龍裕

東京都新宿区榎町72番地 株式会社カー

メイト内

Fターム(参考) 3B088 KA01 KB01 KB02

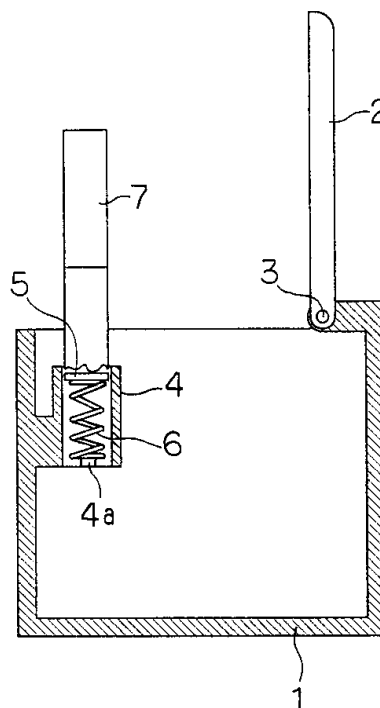
(54) 【発明の名称】 タバコの火消し機能付灰皿

(57) 【要約】

【課題】従来のタバコの火消し機能付灰皿では、直ぐに火消し孔が灰で詰まってしまう欠点があった。

【解決手段】本発明のタバコの火消し機能付灰皿は、灰皿ケースと、この灰皿ケース内に配置したタバコ挿入用筒体と、この筒体内面に配置せしめた灰除去体と、上記筒体を上記灰除去体と相対的に移動せしめる手段とより成る。上記相対移動手段は、上記灰除去体を上記筒体のタバコ挿入口に位置せしめるよう抑制せしめる弾性手段または上記筒体のタバコ挿入口と反対側開口を上記灰除去体に位置せしめるよう抑制せしめる弾性手段を有する。上記灰皿ケースは開閉蓋を有し、上記弾性手段に抗して上記筒体が上記開閉蓋の閉時上記灰除去体と相対的に移動される。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

灰皿ケースと、この灰皿ケース内に配置したタバコ挿入用筒体と、この筒体内面に配置せしめた灰除去体と、上記筒体と上記灰除去体の一方を他方に対し相対的に移動せしめる手段とよりなることを特徴とするタバコの火消し機能付灰皿。

【請求項 2】

上記相対的に移動せしめる手段が、上記灰除去体を上記筒体のタバコ挿入口側に付勢せしめる弾性手段を有することを特徴とする請求項 1 記載のタバコの火消し機能付灰皿。

【請求項 3】

上記相対的に移動せしめる手段が、上記筒体のタバコ挿入口と反対側の開口を上記灰除去体側に付勢せしめる弾性手段を有することを特徴とする請求項 1 記載のタバコの火消し機能付灰皿。 10

【請求項 4】

上記相対的に移動せしめる手段が、上記灰除去体を上記筒体のタバコ挿入口と反対側の開口側に付勢せしめる弾性手段を有することを特徴とする請求項 1 記載のタバコの火消し機能付灰皿。

【請求項 5】

灰皿ケースと、開閉蓋と、この灰皿ケース内に配置したタバコ挿入用筒体と、この筒体内面に配置せしめた灰除去体と、上記筒体と上記灰除去体の一方を他方に対し相対的に移動せしめる手段とより成り、上記相対的に移動せしめる手段が上記開閉蓋の開閉に連動していることを特徴とするタバコの火消し機能付灰皿。 20

【請求項 6】

灰皿ケースと、この灰皿ケースにその基部を枢支した開閉蓋と、この蓋の下面に固定したタバコ挿入用筒体と、この筒体内面に配置せしめた灰除去体と、この灰除去体にその一端を連結し、その他端を上記開閉蓋の枢支部の下方位置において上記灰皿ケースに枢支した連結具とより成ることを特徴とするタバコの火消し機能付灰皿。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明はタバコの火消し機能付灰皿、特に火消し具の孔をクリーニング可能なタバコの火消し機能付灰皿に関するものである。 30

【0002】**【従来技術】**

従来、灰皿に設けた火消し孔に火の付いたタバコを挿入し、孔内を酸欠状態として消火せしめるものとしては実開平 6 - 23498 号公報や実開平 7 - 7494 号公報に示されたものがある。

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

然しながら従来、火消し孔で消火する時は数秒間経たないと安全に消火しない為、使用者は火消し孔でタバコをもみ消すことが多い。タバコを火消し孔で数本もみ消すと孔内部が灰により詰まってしまい火消し孔本来の機能を奏しない。このため火消し孔底部に灰抜き孔を設けたものもあるがあまり効果がなかった。 40

【0004】

本発明は火消し孔内を積極的にクリーニングして上記の欠点を除去するようにしたものである。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本発明のタバコの火消し機能付灰皿は、灰皿ケースと、この灰皿ケース内に配置したタバコ挿入用筒体と、この筒体内面に配置せしめた灰除去体と、上記筒体と上記灰除去体の何れか一方を他方に対し相対的に移動せしめる手段とよりなることを特徴とする。 50

【0006】

上記相対的に移動せしめる手段は、上記灰除去体を上記筒体のタバコ挿入口側に付勢せしめるよう抑制せしめる弾性手段または上記筒体のタバコ挿入口と反対側の開口を上記灰除去体側に付勢せしめるよう抑制せしめる弾性手段を有する。

【0007】

上記灰皿ケースは開閉蓋を有し、上記開閉蓋の閉時上記弾性手段に抗して上記筒体が上記灰除去体と相対的に移動される。

【0008】

また、本発明のタバコの火消し機能付灰皿は、灰皿ケースと、この灰皿ケースにその基部を枢支した開閉蓋と、この蓋の下面に傾斜して固定したタバコ挿入用筒体と、この筒体内面に嵌合せしめた灰除去体と、この灰除去体にその一端を連結し、その他端を上記開閉蓋の枢支部の下方位置において上記灰皿ケースに枢支した連結具とより成ることを特徴とする。

10

【0009】

【発明の実施の形態】

以下図面によって本発明の実施例を説明する。

【0010】

図1において1は上が開いた箱状の灰皿ケース、2はその一端を上記灰皿ケース1の一侧上面の第1の位置に枢支ピン3を介してその基部を回動自在に枢支した上蓋を示し、本発明の第1の実施例においては図1に示すようにタバコ挿入用中空円筒4を上記灰皿ケース1の他側上部内面に垂直に固定し、この円筒4内面に灰除去板5を配置せしめ、この灰除去板5の下面と上記円筒4の底部から突出せしめた受け4aとの間にスプリング6を介挿せしめ、上記灰除去板5を常時上記円筒4のタバコ挿入口に向かって抑制せしめる。

20

【0011】

本発明の第1の実施例は上記のような構成であるからその使用に際しては図1に示すように上蓋2を垂立して灰皿ケース1を開いた状態でタバコ7を円筒4内に上方から挿入して火の付いた部分を灰除去板5に接触せしめ図2に示すように手で押し下げる。

【0012】

次いでタバコ7から手を離せば図2から図3の状態になり、タバコ7が円筒4から離脱し、同時に灰除去板5が円筒4内を軸方向に上動しタバコ挿入口であるその上端部に達するから円筒4内の灰8が完全に除去されるようになる。

30

【0013】

なお、上記受け4aは灰皿ケース1の内面から突出して設けても良い。

【0014】

図4～図6は本発明の第2の実施例を示し、この実施例においては灰皿ケース1とは独立したタバコ挿入用中空円筒9を用い、灰皿ケース1の他側内面下部に受け1aを設け、この受け1aによってタバコ挿入用中空円筒9の下面をスプリング10を介して支持せしめ、上記中空円筒9内面に嵌合した灰除去板5を支軸11を介して上記受け1aに固定する。

【0015】

また、上記灰皿ケース1の上記他側に縦溝12を設け、この縦溝12を貫通して上記灰皿ケース1の他側外面に延びるレバー13を上記中空円筒9の外側面に連結せしめる。

40

【0016】

本発明の第2の実施例は上記のような構成であるからその使用に際しては図1に示すと同様上蓋2を垂立して灰皿ケース1を開いた状態でタバコ7を中空円筒9内に上方から挿入して火の付いた部分を灰除去板5に接触せしめる。

【0017】

次いでスプリング10に抗してレバー13を縦溝12に沿って押し下げれば図5から図6の状態になり、灰除去板5が中空円筒9内を軸方向に上動しその上端部に達するからタバコ7が中空円筒9から離脱し、また、中空円筒9内の灰8が完全に除去されるようになる

50

。

【0018】

図7～図9は上記第2の実施例において上記レバー13を手もしくは上蓋2によって操作出来るようにした本発明の第3の実施例を示し、上記第2の実施例と同一部分は同一符号を付し、その説明は省略する。

【0019】

この第3の実施例においては上蓋2の遊端に折り曲げ操作杆14を設け、上蓋2を閉じたとき、上記操作杆14が上記レバー13の上端に係合し、スプリング10に抗して中空円筒9を押し下げようとする。

【0020】

この第3の実施例による作用効果は上記第2の実施例のそれと同様である。

【0021】

図10は本発明の第4の実施例を示し、この実施例においては上記タバコ挿入用中空円筒4を上記灰皿ケース1の他側上部内面に垂直に形成し、この中空円筒4の下側における上記他側の壁に下方に延びる縦溝12を形成し、この縦溝12を貫通して上記灰皿ケース1の他側外面に延びるレバー13を上記中空円筒4に配置した灰除去板5の下面に連結せしめ、上記レバー13と上記中空円筒4を形成した上記灰皿ケース1の他側の壁間にスプリング10を介挿せしめ、上記レバー13を常時下方に抑制せしめる。

【0022】

本発明の第5の実施例においては図11及び図12に示すように、上記第4の実施例における灰除去板5の上記他側の壁側に上記壁側を切欠して上記縦溝12に連通せしめた断面C状の中空円筒4を形成し、スプリング10を省略せしめる。

【0023】

上記第4及び第5の実施例による作用効果は上記第2の実施例のそれと同様である。

【0024】

なお、上記第4の実施例におけるレバー13は上記第3の実施例と同様上蓋2によって操作できるようにしても良い。

【0025】

図13～図15は本発明の第6の実施例を示し、この実施例においては図13に示すように上蓋2を垂立して灰皿ケース1の上面を開いた状態で斜め前方に開口したタバコ挿入用中空円筒9を上蓋2の基部下面に一体に固定し、この中空円筒9の内面に球状灰除去体15を配置せしめ、この球状灰除去体15にその一端を固定した支杆16の他端を上記灰皿ケース1の上記第1の位置より下方の第2の位置における上記灰皿ケース1の一側内面に枢支ピン17を介して回動自在に枢支せしめ、上記支杆16の長さは上記上蓋2を回動して図15に示すように上蓋2によって上記灰皿ケース1を完全に閉じたとき、上記球状灰除去体15が上記中空円筒9の先端部に達する大きさならしめる。

【0026】

本発明の第6の実施例は上記のような構成であるからその使用に際しては図16に示すように上蓋2を垂立した状態でタバコ7を中空円筒9内に上方から挿入して火の付いた部分を球状灰除去体15に接触せしめる。

【0027】

次いで上蓋2を閉じれば図17から図18の状態ではタバコ7が中空円筒9から離脱し、同時に球状灰除去体15の枢支点と上蓋2の枢支点のずれに起因して球状灰除去体15が中空円筒9内を軸方向に移動しその先端部に達するから中空円筒9内の灰8が完全に除去されるようになる。

【0028】

図19～図21は本発明の第7の実施例を示し、この実施例においては球状灰除去体15の代りに円板状灰除去体18を用いる。

【0029】

この第7の実施例においては円板状灰除去体18の外周面が中空円筒9の内周面に面とし

10

20

30

40

50

て接するため中空円筒 9 の傾斜角が上蓋 2 の開閉に応じて変わっても常時同軸状の姿勢を取る必要がある。そのため上記支杆 16 の代りに一端を円板状灰除去体 18 に枢支ピン 19 を介して回動自在に枢支し、他端を上記灰皿ケース 1 の上面一側の上記第 2 の位置に枢支ピン 17 を介して回動自在に枢支したリンク 20 を用いる。

【0030】

本発明の第 7 の実施例は上記のような構成であるからその使用に際しては図 22 に示すように上蓋 2 を垂立した状態でタバコ 7 を中空円筒 9 内に上方から挿入して火の付いた部分を円板状灰除去体 18 に接触せしめる。

【0031】

次いで上蓋 2 を閉じれば図 23 から図 24 の状態でタバコ 7 が中空円筒 9 から離脱し、同時に円板状灰除去体 18 の枢支点と上蓋 2 の枢支点のずれに起因して円板状灰除去体 18 が中空円筒 9 内を軸方向に移動しその先端部に達するから中空円筒 9 内の灰 8 が完全に除去される。

10

【0032】

上記第 7 の実施例の作用効果は上記第 6 の実施例と同様である。

【0033】

なお、上記第 6 の実施例における支杆 16 及び上記第 5 の実施例におけるリンク 20 の代りにつる巻きばね（図示せず）を用いても良い。

【0034】

また、上記各実施例における上蓋 2 はスプリング（図示せず）によって常時垂立するように抑制せしめ、灰皿ケース 1 内を常時開くようにしても良い。

20

【0035】

【発明の効果】

本発明のタバコの火消し機能付灰皿によれば、火消し円筒内の灰による詰まりを確実に防ぐことが出来ると共に、手を汚すこともない等大きな利益がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明のタバコの火消し機能付灰皿の第 1 の実施例を示す縦断面図である。

【図 2】図 1 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 3】図 1 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 4】本発明のタバコの火消し機能付灰皿の第 2 の実施例を示す縦断面図である。

30

【図 5】図 4 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 6】図 4 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 7】本発明のタバコの火消し機能付灰皿の第 3 の実施例を示す縦断面図である。

【図 8】図 7 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 9】図 7 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 10】本発明のタバコの火消し機能付灰皿の第 4 の実施例を示す縦断面図である。

【図 11】本発明のタバコの火消し機能付灰皿の第 5 の実施例を示す縦断面図である。

【図 12】図 11 の 12 - 12 線断面図である。

【図 13】本発明のタバコの火消し機能付灰皿の第 6 の実施例を示す縦断面図である。

【図 14】図 13 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

40

【図 15】図 13 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 16】図 13 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 17】図 13 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 18】図 13 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 19】本発明のタバコの火消し機能付灰皿の第 7 の実施例を示す縦断面図である。

【図 20】図 19 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 21】図 19 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 22】図 19 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 23】図 19 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

【図 24】図 19 に示すタバコの火消し機能付灰皿の動作説明図である。

50

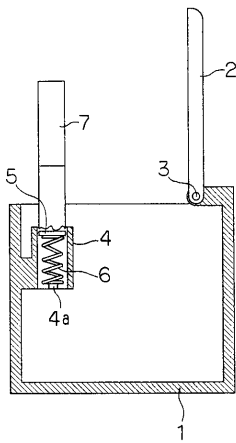
【符号の説明】

- 1 灰皿ケース
- 1 a 受け
- 2 上蓋
- 3 枢支ピン
- 4 中空円筒
- 4 a 受け
- 5 灰除去板
- 6 スプリング
- 7 タバコ
- 8 灰
- 9 中空円筒
- 10 スプリング
- 11 支軸
- 12 縦溝
- 13 レバー
- 14 操作杆
- 15 球状灰除去体
- 16 支杆
- 17 枢支ピン
- 18 円板状灰除去体
- 19 枢支ピン
- 20 リンク

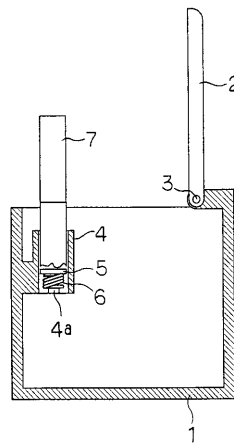
10

20

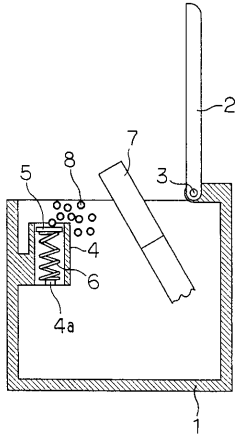
【図1】



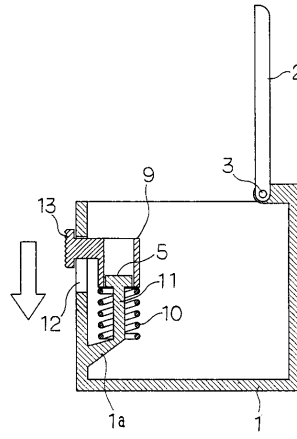
【図2】



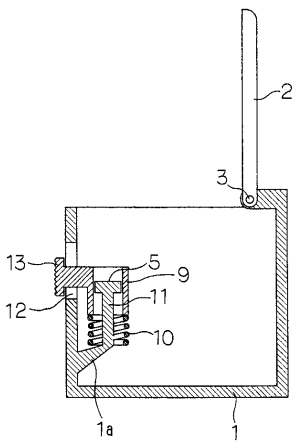
【 図 3 】



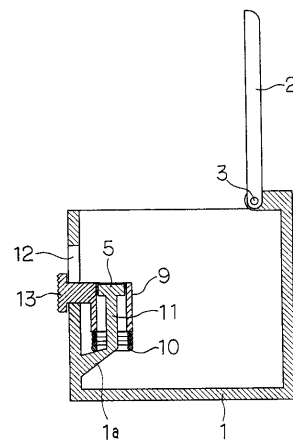
【 図 4 】



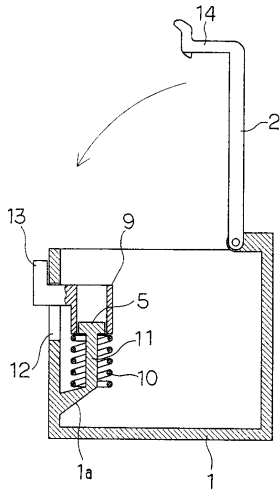
【 図 5 】



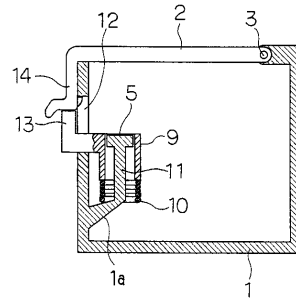
【 図 6 】



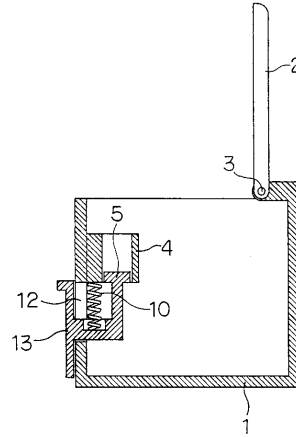
【 図 7 】



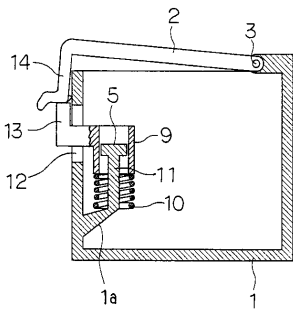
【 図 9 】



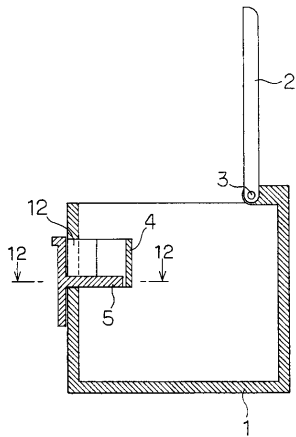
【 図 10 】



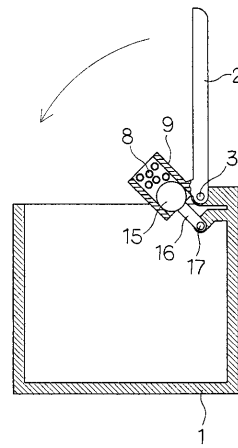
【 図 8 】



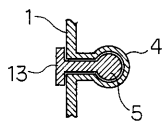
【 図 11 】



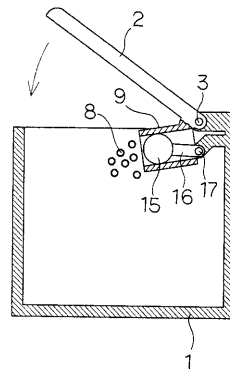
【 図 13 】



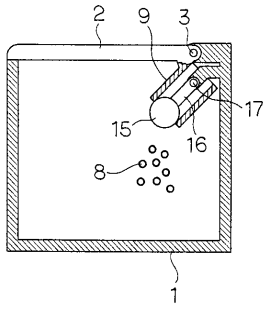
【 図 12 】



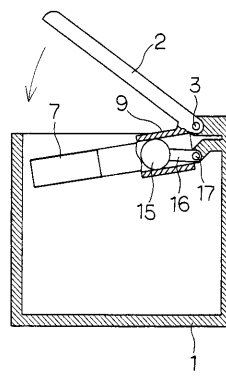
【 図 14 】



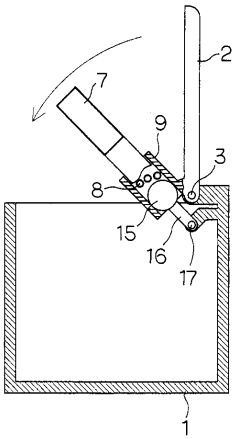
【図 15】



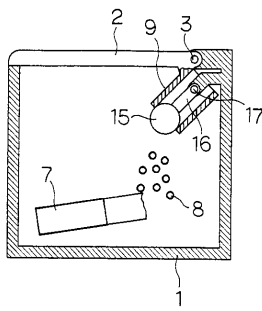
【図 17】



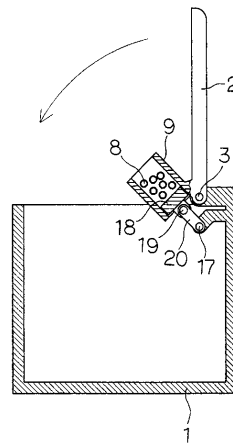
【図 16】



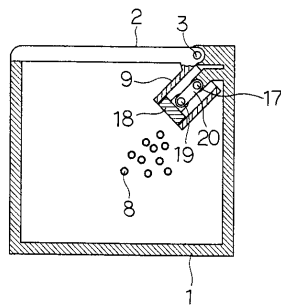
【図 18】



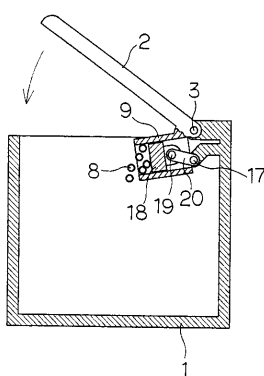
【図 19】



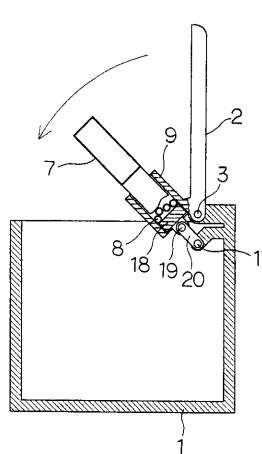
【図 21】



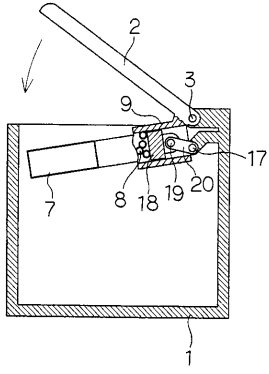
【図 20】



【図 22】



【 図 2 3 】



【 図 2 4 】

